
コラム

G-cubed : 地球科学の新しい電子ジャーナル Geochemistry, Geophysics and Geosystems

AGU (アメリカ地球物理連合) と Geochemical Society (地球化学学会) が 1999 年 12 月に創刊した電子版のみの国際学術誌である。JGR, EPSL レベルをねらっている。モニター上で読める html 版とは別に、きちんと雑誌体にレイアウトされた pdf 版が用意され、各自印刷できる。バックデータはテキストファイルで web 上に置いておくことができ、動画をつけることも可能。ジャンルも原著論文の他にレター、総説、Data Briefs, Technical Briefs 等がある。いくつかの大学などがスポンサーになっており、現在のところは無料で誰でもアクセスできる (<http://gcubed.magnet.fsu.edu/>)。

投稿者にとっても以下に述べるようないくつかのメリットがある。投稿・査読も全てインターネット上で行われ、投稿から受理・発行までの期間がかなり短縮されていること。サーキュレーションが良いこと。カラーの図をたくさん載せられるだけでなく上記のような多様なプレゼンテーションが可能であること。本文の文字制限はあるが web 上で公開されるデータは大量でも可能、さらに現在のところ投稿料も無料である。一方、注意を要する点もある。図の作成は、モニター上で解読できる文字サイズである (11 ポイント以上) こと、カラーでも白黒でも判読の可能な色づけであることなどが要求され、私は結局全部書き直した。画像の解像度が印刷雑誌には劣ることや、pdf 版でプリントアウトしたときのページ数が大部になることも問題である。原稿を日本語の環境で作成すると、うっかり挿入された画面では見えない日本語フォントの“空白”により、転送時にトラブルが生じたり、イラストレータ以外のソフトで作成した図の文字の改行が転送時に化けてしまったりして、結構苦勞した。たぶん編集者も苦勞したに違いない。また校正も html 版、pdf 版、web 上の txt 版といくつもあって時間と手間がかかった。このように、問題がないわけでもないが、前述したメリットを考えると、今後はこの形態での雑誌の発行が急速に進むのではないかと思う。ぜひ皆さんもチャレンジしていただきたい。

2001 年 2 月号

GERM (Geochemical Earth Reference Model initiative) プロジェクト

GERM プロジェクトは、46 億年にわたる地球、その内部および相互のフラックスの化学的特徴に関して、地球科学におけるコンセンサスを確立するための草の根運動と位置づけられている。

現在の地球の気候環境変動も、46 億年の地球の地質学的な歴史の結果であり、地球のダイナミクスのコントロール下にある。たとえばミランコビッチサイクルや温室効果などという短期の地球の気候環境変動を理解する上で、惑星としての地球の地球化学モデルが必要とされているが、未だ理解が進んでいるとは言い難い。これまでの研究のアプローチや対象は偏っていた傾向を否めないが、現在は ODP や Inter-RIDGE など地球システムに関する大型国際プロジェクトが進められている。このような状況下で地球物理モデルとも整合的な地球化学的モデルの構築を目的として GERM プロジェクトが提案された。

これまでに、1999 年 AGU で会合がもたれ、2001 年 3 月にはスクリプス海洋研究所で GERM 2001 Workshop が開催される予定である。また、別項のコラムで紹介した電子ジャーナル G-cubed では現在特集が組まれている。

詳しくは <http://earthref.org/bottom.htm> にアクセスして頂きたい。ここには分配係数のデータや各種の地球化学モデルが掲載されている。ただし、これらのデータやモデルは、使う人がその意味をよく理解して引用すべきであり、便利だからといって安易に使うべきではない。

(富樫茂子)